



いのちのきずな

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

井の頭

吉祥寺

三鷹

22号

2015年5・6月号

2015年(平成27年)5月1日

●編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸 気付
電 話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
一般社団法人武蔵野市観光機構

●制作支援
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あと2年

絵せのうさちこ 文瀬能けい子

せのうさちこ

INFORMATION 2015年5月～6月

井の頭自然文化園

- 春のスタンプラリー「今と昔の文化園めぐり」の開催
園内の各所に昔の写真を掲示し、今と昔の様子を見比べながら園内をめぐるスタンプラリーを開催します。
日 時 平成27年4月25日(土)～5月24日(日) 各日9時30分～
ラリーシート配布場所 ●動物園(本園)正門先広場 ●水生植物園(分園)七井門先
配布枚数 会期中15,000枚(動物園と水生植物園をあわせて)
- 井の頭自然文化園開園記念日のイベント
開園記念日の無料開園
開園記念日の5月17日(日)は、どなたでも無料で入園できます
開園記念日イベントの概要
1 農園芸職員と巡る文化園植物ツアー
日 時 平成27年5月17日(日) 11時30分～(雨天中止)
場 所 動物園(本園)正門前集合
内 容 文化園の植物の魅力を紹介する特別ツアー
2 園長とどうぶつえん散歩
日 時 平成27年5月16日(土)、17日(日) 各日12時30分～
場 所 動物園(本園)正門前集合
内 容 園長がみなさんと一緒に園内をめぐります
3 動物解説員とめぐる自然文化園歴史探検
日 時 平成27年5月16日(土)、17日(日) 各日13時30分～
場 所 動物園(本園)サル山前集合
内 容 動物と動物園の歴史などを紹介します



詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

井の頭恩賜公園

【ネイチャー☆プログラム】次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- あおぞら実験室(井の頭池付近) 5月3日(日)、6月7日(日)
- グリーンバード(井の頭池付近) 5月10日(日)、5月24日(日)
6月6日(土)、6月14日(日)
- どんぐり広場(御殿山広場) 6月11日(木)

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.i-np.jp/index.html に載せます。

井の頭かんさつ会

- 第121回「春の野鳥観察会」 5月10日(日) 8:30～11:00
- 第122回 未定

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP http://www.kansatsukai.net/ に載せます。

1級渡邊安浩 のいのけん受験講座答え合わせ

Q1 伊勢屋伊兵衛 Q2 水 Q3 参道



井の頭自然文化園の動物たちと飼育員 その3



体長5～6cmと日本最大の水生昆虫。逆さになって水中の杭につかまり、じっと待ち構えます。目の前を魚が通るやいなやガシッと前足で捕らえ、針状の口から消化液を送り込み、溶けた肉をすすります。いかにも凶暴そうですが、飼育員の渡辺良平さんに言わせると、「クリッとした大きな目が魅力的。泳ぎがヘタ。体に藻がつかないように、自分でまめにメンテナンスするんです」と意外な面が続々。

「田んぼ」に住む「カメムシ」が名前の由来で、どこの田んぼにも、井の頭池にも生息していましたが、40～50年前に急速に姿を消しました。水路の多くがコンクリートで固められて流れが早くなったこと、エサであるカエルや魚が減ったことなどが原因と言われています。

意外な面は子育てにも。メスは産卵すると去り、オスはふ化までの2週間、卵が乾かないように水をかけたり、身をていして風から守ったりして、かいがいしく世話をします。

この冬は土のなかで冬越しさせました。「動き始める4月中ごろまでも、水に移したばかりのころも、無事を祈るばかりです。リスクはありますが、タガメに季節の変化を感じてもらいたい。繁殖にもいい影響が現れると期待しています」 小田原 澪(おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩、三鷹市在住。

はな子の足癖
飼育担当者によると、以前から、はな子は寝室に入る前に、扉の敷居レールのところを、右の前足で何度か蹴ってから入室することが多かったそうで、ある日、「何回くらい蹴ったら満足して入るんだろう?」と、その回数を数えてみたところ、33回だったそうです。

何か法則性があるかもしれないと思い、その翌日から、毎日気をつけて数えてもらったら、1回も蹴らずにすんなり入室した日もあれば、1回、18回、43回、52回と、蹴る回数は日によってまちまちでした。

しかし、私たちが気づかないだけで、この行動にも、何かしらのメッセージが含まれているのかもしれません。しばらくは注意して様子を見てもらうようにしています。



(飼育展示係長 堀 秀正)

▲敷居レールを蹴るはな子

その22

井の頭公園の生き物たち エゴツルクビオトシブミ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組む。



自然からの手紙

5月、若葉を広げたエゴノキやハクウンボクをよく見ると、葉が巧みに巻かれたものがぶら下がっているのに気づきます。写真の甲虫、エゴツルクビオトシブミが作った揺籃(ようらん)、ゆりかごです。「エゴノキが好きな、鶴のように長い首をしたオトシブミ」という意味ですが、実際に葉を巻くのは、上方にも写っている、もう少し首が短いメスのほうです。全長はオスが7mm前後、メスは5mmほどしかありません。飛来したメスは、葉を丹念に調べ歩いた後、葉元近くに横からJ型の切込みを入れ、その先を葉軸に沿って二つ折りにし、

2月28日から計4個の卵を産み、4羽のヒナを孵したのに、その後2羽を失ったペア、それより10日ほど遅れて誕生した一人っ子がまだ小さいのに、早くも次の子育ての意欲を見せるペア、メスが産卵したのに、オスが卵を抱こうとせず、2個の卵を放置することになったペア、ボート池の桜の枝先に何度も巣を作ったのに、そのたびにボートに壊されているペア、そして、粕江橋のボート池側という狭い場所からお茶の水池の中央に進出して巣作り中のペア。4月19日現在、5組のカップルがお茶の水池とボート池で縄張りを構えています。5組もいると、カイツブリもカップルによっていろいろなのだと分かります。

さすがに過密で、縄張り争いも盛んです。この先も共存が可能かどうかは、今後の食糧事情にかかっています。寒い間は餌だったブルーギルは暖かくなると敵に変わります。冬を越した大量のギルの圧力に負けずに、モツゴが増えてくれればよいのですが・・・



3羽だったときのヒナ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/

22

カップルもいろいろ

「楽園はよみがえるか!」



カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

「江戸名所図会」ってどんな本？

井の頭のこと載っている江戸時代の書物の中でも、特に有名なのが「江戸名所図会」。江戸の名所について紐解く人の多くが、今なお参照する資料の筆頭です。井の頭弁財天と井の頭池については挿絵入りでの掲載です。時代を超えて読み継がれているロングセラーのガイドブック。その発刊の背景をのぞいてみましょう。



▲ 江戸名所図会（えどめいしよえ） 【『井の頭公園まるとガイドブック』より／写真提供：国立公文書館】

「江戸名所図会」は全七巻二十冊の大作。江戸市中から近郊に至る広い地域の地理・歴史情報が網羅されています。発行は1834（天保5）年。編纂したのは斎藤幸雄、幸孝、幸成の親子三代。着手から実に四十余年を経ての発刊でした。解説文と写実的な挿絵で構成される「図会」と呼ばれるスタイルのガイドブックは、1780（安永9）年に刊行された京都の「都名所図会」に始まると言われます。斎藤幸雄は、その影響を受けて江戸版を企画したようです。ところが1798（寛政10）年に出版許可が出たにもかかわらず幸雄は逝去し、幸孝が引き継いで収録範囲を郊外に広げたもののやはり未刊のまま世を去り、幸成がついに発刊にこぎつけたのでした。

発行当時、幸成は三十歳。代々受け継ぐ神田稚子町の町名主（＝町役人）の多忙な公務の傍ら、祖父と父から託された大著を完成させました。長谷川雪旦の挿絵は、幸孝の時代に描かれたと推測されます。版元は、当時江戸で屈指の須原屋茂兵衛と伊八。都名所図会」を超える名作を制作しようとして、編者と絵師と版元が意気投合してのコラボレーションだったことでしょう。ちなみに、幸成は斎藤月岑（げっしん）の筆名で「東都歳時記」「武江年表」などの著作の数々も残しています。

「井頭弁財天宮」と「井頭池」が紹介されているのは「江戸名所図会」の四之巻。牟礼村に位置し、池の島に弁天堂があり天台宗の大盛寺が別当であること、そして数々の伝説、樹木の植生についても触れられています。

ちくま学芸文庫でも再版されていたり、いくつも解説書が出版されていたりします。ちよっぴりタイムスリップする気分、手に取ってみてはいかがですか。

安田知代

私と井の頭公園 その21

昭和十年代の井の頭公園の写真があるけど…

徳田 薫（世田谷区在住）

昨年の暮れ、世田谷区経堂の徳田さんという方から「昭和十年代の井の頭公園の写真があるけど、要りますか」という電話があった。すぐにも駆けつけたかったが、年末はばたばたしていることで、正月早々自宅に伺った。写真は父上の徳田東助氏（明治38年生・享年73歳）が独製のローライフレックスとリカで撮ったネガフィルムとプリントだった。50枚ほどのネガをプリントしてみると、そこには、今と変わらぬ公園で憩う人々や、うわさでしか知らなかった茶店など、戦前戦後の貴重な井の頭公園の姿が次々現れた。



戦前まであった茶店（徳田東助氏 撮影）

とにかく親父は多趣味で、写真撮影、こけし収集、登山、岩登り、スキー、野球観戦というろ楽しんでいましたね。岡山出身で神戸市六甲にいたのですが、昭和12年に当時の東京府北多摩郡武蔵野町吉祥寺に引っ越してきました。今のヨドバシカメラのあるところ。私が1歳の時でした。向かいに井の頭自然文化園園長の木村四郎さん（第3代と第5代の園長）の住まいがありました。

吉祥寺にきたのは、父親が三鷹の下連雀にあったある会社に勤めるようになったからです。ここでは零戦など戦闘機のエンジンを作っていたようです。自宅と会社の間に、井の頭公園があるわけですから、公園に慣れ親しんで、写真を撮っていたのではないのでしょうか。

私も井の頭公園にはよく遊びにきました。釣りをしたり、冷たいプールで泳いだりしました。当時は遊覧モーターボートもあって、お茶の水池から七井橋をくぐってポート池に入り弁天池まで走っていたように記憶しています。古い写真を整理しながら、そのようなことを思い出しましたが、処分しないで良かったです。親父も喜んでいました。

（つんだかおる）

（聞き手・写真・川井信良）

川井信良（かわいしんりやう）
70年代80年代に「三鷹市」「三鷹市」や「みたかきいたか」を発行。



写真 古賀 親宗（こが もとものり）
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

1級渡邊安浩のいのけん受験講座

1級問題（正しい答えを漢字で答えなさい）

Q1 井之頭弁財天の弁天堂正面の橋の手前、公園の道に面して設置されている「日本橋」の灯籠に彫られている寄進者の名前のうち、今も存続する鯉節屋の「にんべん」の屋号はなんでしょうか？

弁財天は、ヒンズー教の（ ）の神様を起源とする神様です。

Q2 三鷹市井の頭 4 丁目の井の頭公会堂の斜め前に、「黒門」と呼ばれる鳥居に似た木製の門があります。この「黒門」から大盛寺までの道は、かつては弁財天への参詣者が通る（ ）だったのです。

答えは裏面のインフォメーションのところだよ



第3回「いのけん」一級合格者特典ツアーが行われました。

一級合格者のための特典ツアーが 2015年3月14日（土）に井の頭自然文化園にて、第2回合格者および第1回合格者が参加して行われました。普段見ることができない施設などを動物解説員の馬島さんに案内していただきました。また、16日には、西部公園緑地事務所の前田さんの案内で御殿山地区（井戸の制御盤など）や整備中の西園地区を見て回ることができました。2日共とても貴重な経験をさせていただきました。次は皆さまの番ですよ。



▼ 今年度の「かいぼり隊」の活動は、円陣のミーティングで幕開け。



「かいぼり隊」、今年度もいきいきと活動をスタート！

お花見シーズンも一段落。新緑が爽やかな季節となった4月19日（日）、新年度初の「かいぼり隊」の活動が行われました。

平成25年秋の公募で集まったチームで活動するみなさんは、冬の間に観測を継続しつつ、今年度実施される2度目のかいぼりに向けて普及活動にも力を入れています。井の頭コミュニティセンターで子どもたちと活動している市民グループとの協力も予定しています。

井の頭池での調査では、「慣れたときが危険」ということで、「KY（危険予知）活動」もスタート。水の中での歩き方、ボートやフローターから落ちたときの対処、生き物や植物への配慮など、細やかに情報を共有しながら活動しています。

活動中は、「かいぼり隊」の旗が目印です。生き物のこと、水のこと、いろいろな知りたいことを気軽に尋ねてみてください！

井の頭公園の古い写真を集めています

◀昭和25年頃の井の頭池 写真提供：鈴木育男氏
2017年の井の頭恩賜公園開園100周年を記念して、井の頭公園の今昔を伝える写真集を刊行する予定です。井の頭公園の古い写真をお持ちの方で、写真集に掲載しても良い方はご一報願います。
なお、お借りした写真は、スキャン後、速やかにご返却いたします。また、謝礼として、完成した写真集を贈呈いたします。



募集

お問い合わせ ぶんしん出版
☎0422-60-2211（担当：宮川）
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『いのきちさん』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の三「さん」を並べたものです。（奇数月1日の隔月発行です）

